

ポストコロナ社会へ SDGs で次世代につなぐ



地エネと環境の 地域デザイン



2020年度 会員募集のご案内

協議会発足の背景と活動趣旨

ポストコロナ・脱温暖化「分散」「自立」への転換

新型コロナ危機は、時代をビフォーコロナとアフターコロナに分かつほど、社会のありようを変えられていると言われています。世界中にウイルスが急速に拡散したのは、都市化による「過密社会」とグローバルな「移動」の活発化が大きな要因でした。ポストコロナの社会は、ウイルス感染症に対してリスクが大きい今の経済構造を見直し、コロナに翻弄された地域を、「**分散**」「**自立**」「**地産地消**」などの観点から立て直すことが求められます。

エネルギーの世界では、地球の気候変動への危機感や**SDGs**（持続可能な開発目標）を背景に、既にこうしたキーワードを先取りする形でパラダイムシフトが進んできました。石炭などの大規模発電所に象徴される一極集中型から、点在する**自然エネルギー資源を上手に生かした地域がつながる分散・ネットワーク型への転換**が世界的な潮流となっています。

新型コロナウイルスの世界的流行で化石燃料利用が急減したのに伴い、地球の各地から環境汚染の劇的な改善が報告され、温暖化の要因とされる二酸化炭素の減少が2020年は過去最大になる見込みです。コロナ危機による一時的な環境改善によって、今までの経済の在り方が地球温暖化の要因であることが示されたことで、自然エネルギーにシフトする流れが加速すると思われます。

「地エネ」からデザインする持続可能な地域

「地エネと環境の地域デザイン協議会」は、東京一極集中やグローバル化による、ヒト、カネ、モノの流出で疲弊する地域を再生する方策として、エネルギーと環境の視点から地域と経営の新しいデザインを育むことをテーマに、昨年2019年に発足しました。

コロナ危機によって、パンデミック対策の面からも一極集中の是正やグローバル経済依存からの脱却に向けた戦略が地域や企業により強く求められるようになりました。**ポストコロナ・脱温暖化における持続可能性を考えるためのプラットフォーム**として、本協議会の役割はますます重要になると考えます。

日本は、江戸時代に、太陽と水、森林や草原、農作物などの地域資源を無駄なく生かし切る世界でもまれな資源循環社会を実現した経験を持つ国です。

— 先人たちの地域デザインの原型に学びつつ、廃棄物を原料としたバイオガスや木質バイオマス、小水力、太陽電池、太陽熱などの現代の自然エネルギーの技術と発想によって、地域の自然と人の営みをつなぎ直し、経済の循環を生み出す —


そうした新しい豊かな社会に向けたデザイン力を高め、形にしていく取り組みを、日本の縮図である兵庫から広げていきたいと思えます。

本協議会は、趣旨にご賛同いただける会員を募集いたします。

今年度協議会開催スケジュール



これからの自然エネルギーをテーマに多角的に学び合い、活動の場を予定しています。

<p>2020年 8月31日(月) 14時～16時30分 オンライン開催</p>	<p>講演会</p> <p>「ポストコロナ時代の持続可能な社会とは SDGsの観点から考える 自然エネルギーのこれから」 (仮)</p> <p>末吉竹二郎氏</p> <hr/> <p>会員企業からの報告</p> <p>テーマごとに交流・情報交換会</p>  <p>国際金融アナリスト。金融界での長年の経験を生かし、「金融と地球環境問題」を主要テーマに、金融のあり方や企業の社会的責任について講演や著作など多数。国連環境計画・金融イニシアティブの特別顧問、公益財団法人世界自然保護基金ジャパン(WWFジャパン) 会長。</p>
<p>2020年 10月31日(土)</p>	<p>シンポジウム</p> <p>「神戸隆盛の基礎をつくった六甲山の水車群 自然エネルギーの歴史を小水力で未来へ」 (仮)</p> <hr/> <p>分科会活動報告、交流会</p>
<p>2021年 3月頃予定</p>	<p>講演会 (計画中) シンポジウム、分科会報告、懇親交流会</p>

地エネと環境の地域デザイン協議会

(企業、団体、教育機関、行政機関等で構成)

会員：法人・団体40社、個人35名 (2020年5月現在)

総会 (会長、副会長、理事、監事)

意思決定、承認

会長	谷	正典 (神戸新聞社)
副会長	弓削	忠生 (NPO法人都市型農業を考える会)
理事	木下	祝一 (兵庫六甲農業協同組合)
理事	中村	芳文 (兵庫県信用農業協同組合連合会)
理事	井原	一高 (神戸大学)
理事	鬼澤	康弘 (生活協同組合コープこうべ)
理事	寺尾	俊弘 (兵庫県)
理事	安原	潤 (神戸市)
監事	岡田	大輔 (神戸新聞事業社)

事務局 (神戸新聞社メディアビジネス局)

協議会運営

企画案、予算案作成

PR事業の実施

各種調整など

事務局	阿部	俊和 (神戸新聞社)
	三宅	秀幸 (神戸新聞社)
	土倉	一倫 (神戸新聞事業社)
	儀三武	桐子 (神戸新聞事業社)

プロジェクトの進め方

有志による分科会で共通課題について事業検討。

各種PR事業 (体験学習、シンポジウム、イベント、地エネ&農食ツアー、商品・製品開発等) を、協議会事務局と分科会実務担当者で行う。

協議会参画のメリット

情報収集

ひょうごの地エネの今とこれからの地域づくりがわかる
「**地エネと環境の地域デザインメールマガジン**」をお届けします！

神戸新聞社編集委員であり本協議会のコーディネーターである辻本一好監修による、兵庫県内の地エネに関わる情報のつまったメールマガジンをお届けいたします。（月2回程度を予定）

ネットワークづくり

協議会メンバーとの交流・情報発信をとおしてネットワークづくり

協議会は年3回程度予定しており、著名人による講演会やシンポジウム、ワークショップ、懇親会等を取り入れたものを予定しています。

分科会活動支援

メンバー有志によるテーマごとの分科会活動への参加

主に自然エネルギーや環境にまつわるテーマを取り上げ、有志で分科会を結成。事業検討、事業計画の策定、事業実施までを事務局がサポートいたします。

広報

神戸新聞社グループによる広報の活用

協議会活動が神戸新聞朝刊誌面や神戸新聞オンライン版である神戸新聞NEXTにて展開されます。協議会ホームページにて、法人会員様の紹介を掲載いたします。

会費

企業・団体 3万円 / 個人 3千円

税別。行政、研究機関等は知見等の提供によって、この限りではありません。

2019年
7月

第一回地エネと環境の地域デザイン協議会（参加者150名）

基調講演：「持続可能なエネルギー社会づくり」

認定NPO法人環境エネルギー政策研究所所長 飯田 哲也氏

パネルディスカッション

宝塚すみれ発電代表 井上 保子氏

コーディネーター 神戸新聞社 論説委員 辻本 一好氏

懇親交流会

2019年
11月

第二回地エネと環境の地域デザイン協議会（参加者50名）

基調講演「エネルギーシフト」

（株）バイオマスアグリゲーション 久木 裕氏

分科会報告

北摂里山地域循環共生圏

IGES関西研究センター 前田 利蔵氏

木質バイオマス

正垣木材株式会社 岡村 勝弘氏

NPO法人都市型農業を考える会 中西 重喜氏

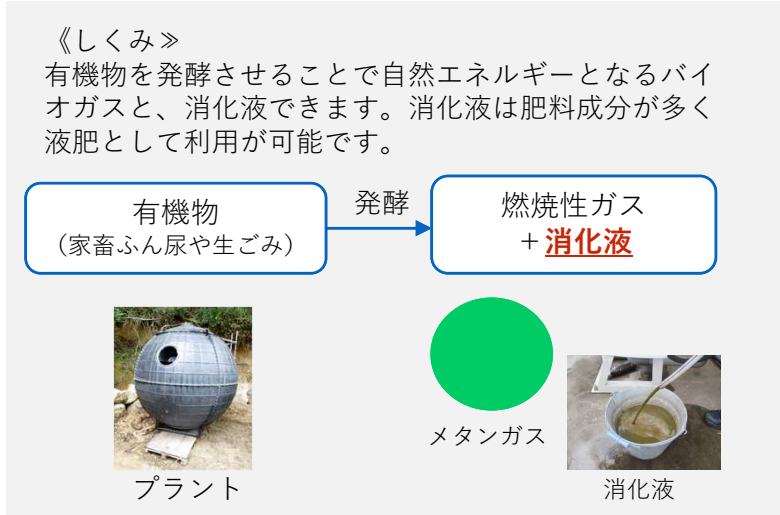
懇親交流会

2020年
3月

第三回地エネと環境の地域デザイン協議会

兵庫県「農」のゼロエミッション推進大会と共催で実施予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催を見送りました。

参考資料②
分科会 資源循環の酒づくり



個々の取り組みや協力を協議会（日本酒分科会）でとりまとめ、**循環型社会モデルを構築。**

循環型社会から生産される商品づくりと**持続可能な新たなビジネスモデルを協議実践。**

分科会メンバー
弓削牧場、地元山田錦農家（3社）、神戸酒心館、富久錦、山陽盃酒造、岡田本家、みのる産業、神戸新聞社 ほか

お問い合わせ先

地エネと環境の地域デザイン協議会

神戸新聞社 メディアビジネス局イノベーション・パートナー部

担当：阿部・三宅

神戸新聞事業社

担当：土倉・儀三武

【 事務局 】 電話：078-360-0560
FAX：078-362-7363
メール：chiene@kobe-j.co.jp